

2025年6月16日発行

事務所 武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
<https://www.s-takeshi.jp>
印刷 中澤印刷株式会社



開校当時(昭和31年頃)の南中校舎。川向こうには下武石、沖、鳥屋の田園風景と家並みが見えます。

「松島の夕照」案内板の除幕式

5月8日(木)、住みよい武石をつくる会自然・生活環境部会と依田窪南部中学校(南中)の生徒さんにより、武石八景案内板「松島の夕照」の除幕式がありました。南中からは生徒会本部の役員さんと3年生イベント系の皆さんで、キャリア学習の中で地域イベントに体験参加しました。

つくる会の児玉会長からは、「南中のある所は松島という地名で、景勝地で有名な宮城県の松島と同じことにちなんで和歌が詠われています。南中の前の道はかつて諏訪に向かう街道であり、川向こうの坂の上には松本へ行く道との分岐点(追分)がありました」との

説明がありました。

武石地区出身で生徒会副会長の上原幹太さんと荻原心結さんからは、「武石は自然の景色など地域の魅力がたくさんあります。武石をもっと良い地域にしたいと思います」、「武石には優しさや温かさがあります。お互いの思いやりのある地域にしたいと思います」と各々あいさつがありました。

今年は南中の開校70周年にあたり、9月の文化祭(紫苑祭)の他に、11月に70周年記念行事を予定しているそうです。

住みよい武石をつくる会 2025年度 定期総会開催

住みよい武石をつくる会の2025年度定期総会を、4月24日(木)午後7時から武石地域総合センターコミュニティホールで開催しました。

議事では2024年度事業報告、決算報告、2025年度事業計画、予算などが審議されました。



第5期前期(令和7年度)定期総会をおえて

住みよい武石をつくる会は、各種団体等から約40名の新たな委員を送っていただき、会長以下総勢102名の委員をもって6部会を構成し、第5期をスタートしました。

平成18年の合併以後上田市は、激変する地域社会の課題に対応するため、従来の自治会の枠をこえた住民自治活動の必要を唱え、旧来の一定のまとまりある地域に町づくり協議会の創設を図りました。「住みよい武石をつくる会」は、平成29年3月に川西地区・神科地区に1年遅れて市内3番目の協議会として発足しました。

私どもの会は、次の観点から地域づくりを策定し、活動を行っています。

- ①「人々が明るく支え合う、安心、安全な地域づくり」
- ②「自然と人の営みによる資源を生かした地域づくり」

早晩、住民数が3,000を割るかもしれない地域の課題を改めて点検し、8年間の活動を検証しながら、皆さんとともに問題・課題の解決に取り組んでまいりますので、今期もご協力をお願いいたします。

住みよい武石をつくる会 会長 児玉 卓文

(1) 2024年度事業報告・決算

① 2024年度事業

2024年度は、つくる会の自主事業、他団体との協業・協力、調査や研修への参加など、次のような事業が実施されました。

- ・熊沢峠登山道トレッキング
- ・武石地域環境整備活動
小山地籍、武石公園、巢栗溪谷、など
- ・武石八景案内看板設置(2か所)
- ・農産物の栽培・販売、武石夏祭りへの出店
- ・JAひだまり武石「食品営業許可」の取得、そば販売
- ・美ヶ原台上太極拳体操
- ・地域福祉勉強会、診療所医師との懇談会
- ・武石保育園保護者アンケートの実施、結果から市との課題・現状共有懇談会
- ・戦争を語り継ぐお話の会開催
- ・広報発行(6回)、エリアトーク運営

② 2024年度一般会計の決算概要

●収支概要

収入総額	3,458,407円
支出総額	3,071,806円
差 引	386,601円

・収 入 (主なもの)

市の交付金	3,071,806円
事業収入	219,250円
前年度繰越金	163,504円

・支 出 (主なもの)

会の委員・役員報酬	538,000円
事務局員賃金	953,748円
消耗品	174,855円
広報印刷費	539,650円
武石八景看板設置	245,000円
バス賃貸・会場使用料	142,942円
備品購入費	143,110円

③ 2024年度無線情報システム(エリアトーク) 特別会計概要

加入戸数は803戸（加入率70.1%）、定時放送でのお知らせは1,020回行いました。

●収支概要

収入総額	3,868,769円
支出総額	3,830,016円
差 引	38,753円

・収 入（主なもの）

加入者負担金	3,644,000円
有料放送手数料	26,400円
前年度繰越金	182,051円

・支 出（主なもの）

アナウンサー賃金	945,892円
中継局電話料、携帯電話料	279,624円
基地局・中継局保険料	53,660円
設備更新のための積立金	2,500,000円

(2) 2025年度事業計画・予算

① 武石まちづくり計画と8年間の事業を検証しながら、次のような事業を計画していきます（他団体と共催、後援を含む）。

- ・ 栗栗渓谷を中心にトレッキング、遊歩道整備
- ・ 武石の縁が輪運営支援
- ・ 武石八景看板設置と整備
- ・ 地域環境整備活動
- ・ 地域防災対策の検討と人材育成
- ・ 地域農産物の栽培と食品加工・販売の実証実験
- ・ 親子農業体験
- ・ 健康維持・増進活動
- ・ 地域医療を守る取り組み
- ・ 子どもと大人のふれあい交流会
- ・ 広報、ホームページ、エリアトークの充実

② 一般会計の予算は、収入・支出3,500千円、収入は市の交付金3,059千円、支出の内容と規模は前年度とほぼ同様となりました。

③ エリアトーク事業については、通常の管理運営事業を進めていきます。

●特別会計予算

収入・支出 3,703千円

内訳は

- ・ 収入は、加入者負担金 3,620千円、手数料 39千円、前年度繰越金 39千円、など。
- ・ 支出は、賃金や通信費などの運営費 1,330千円、設備更新のための積立金 2,300千円、などとなっています。

(3) 役員の改選

第4期（2年）の任期が満了したため、正副会長、監事の改選が行われました。監事の池内俊郎さんが退任し、宮原英朋さんが新監事に選任されました。また、各部会では、正副部会長が互選されました。

会 長	児玉 卓文
副会長(会計兼務)	北澤 茂
副会長	廣川 光子
監 事	橋詰真由美
監 事	宮原 英朋

部 会	部会長	副部会長
ふれあい交流部会	依田 享敏	松井 幸夫 江口 達夫
自然・生活環境部会	橋詰 明德	荻原 光雄 松尾 卓
産業経済部会	橋詰真由美	柳沢 裕子
健康・福祉・体育部会	内山 豊	大島美千代
子育て・教育文化部会	小林 慎一	佐藤しげ子 品川 晃輔
広報部会	北澤 茂	小林 和昭

お知らせ

第9回仮装大賞が開催されます

日時 9月14日(日)
会場 武石地域総合センター
コミュニティホール
主催 武石風土つながり隊



★★★★ 出場者募集中 ★★★★★

締切 6月30日(月)

下記ホームページから応募できます
<https://www.tkasoh.com>



親子農業体験会とジャガイモの植付け

4月12日(土)、産業経済部会は下本入の畑で親子農業体験会とジャガイモの植付け作業を行いました。

農業体験には子どもさん6人を含む3家族が参加、各家族に1本ずつ用意された畝に約20個のジャガイモの植付けを行いました。最後に各家族で目印の看板を立てて終了、7月には収穫体験を



親子農業体験会



ジャガイモの植付け

行う予定です。

その他の約50坪の畑には、部会員の手によりダンシャクの種芋約10kgを植付けました。今後は芽かき、草取り、土寄せ、など、7月末の収穫に向けて作業を行う予定です。「夏祭りに提供するジャガバターにするので、大きなジャガイモがたくさん取れてほしい」と橋詰真由美部会長は話していました。

また、5月10日(土)には部会員によりトウモロコシの種まきを行いました。こちらも収穫後、夏祭りで販売を予定しています。

タケノコご飯の販売 産業経済部会

5月22日(木)、産業経済部会は旬のタケノコを使ってタケノコご飯の試作販売を行いました。

ひだまり武石の調理室で調理し、つなぐ家さんの店頭に並べました。当日は、武石の縁が輪のお茶みサロンにきた人たちが訪れて、買い求めていました。用意したタケノコご飯24パックは

完売し、評価はおおむね良好でした。

産業経済部会では、「今後も少しずつ色々なものを販売できるように頑張っていきたい」としています。



寅さんと仲間たち 写真展示とハーモニカ演奏会

今年は昭和100年にあたり、昭和を懐かしく楽しむ人たちが増えているようです。

4月25～27日、29日、下武石のギャラリークラノマでは、昭和を代表する映画「男はつらいよ」で主人公寅さんの写真や関連書籍、資料の展示会がありました。写真は全てモノクロで約40点、昭和40～50年代に映画撮影の合間に撮られたものとのことです。



寅さんの写真展示

今回、展示会を主催した“コモロ寅さんプロジェクト”(代表：渡辺広昭さん)は、「いつも心に寅さんを」(通称“ココトラ”)を信条に上田、小諸など東信地域を中心に、映画の自主上映や展示会などを行っている寅さん映画ファンの会で、「今回、武石の皆さんの賛同をいただいて武石地域で初めて展示会が出来ました。機会があればまた開催したい」と渡辺さんは話していました。

展示会に合わせてクラノマの前では、かつくんのハーモニカ演奏会があり、男はつらいよ主題歌や童謡ふるさと、歌謡曲、など、ハーモニカの懐かしい音色とメロディーに10人程の観客は聞き入っていました。

また、演奏会に合わせて“ふれあいカフェ武石”の皆さんによるコーヒーの振る舞いがありました。



ハーモニカの演奏会



余里の花桃



武石公園のツツジ

大型連休 花見客で賑わう 余里の花桃・武石公園のツツジ

今年は春先の寒暖差が大きかったことから開花時期が遅れ、連休期間に花の見頃が合いました。

連休前半は、余里の花桃が見頃を迎え、多くの花見客でにぎわいました。直売所があるホドガイコース周辺では、写真サークル仲間5人と花桃の撮影に東京から来たという女性は、「一面に咲いた花桃が素晴らしく、こんな景色が身近にあるのがうらやましい。花桃とトタン掛けの藁葺き屋根との組み合わせがとても良いです」と話していました。直売所では、たらの芽やごみ、わらび、などが並び、訪れたお客さんは武石の山菜の品定めをしていました。

連休後半には、武石公園のツツジが見頃を迎え、地元の家族や県内外から花見の人たちが訪れていました。新潟から美ヶ原高原に観光に来たというご夫婦は、「地元の人に武石公園のツツジを教えてもらい、帰りに寄りました」とのことでした。

デイサービスの送迎車も公園のふもとに止まり、車窓でツツジを眺める人の姿がありました。

親子で植樹祭と林業体験 (株)KIKORI

5月10日(土)、小沢根宿小屋の市道沿いで、“親子で山と楽しみ・親しむ集い”の第2弾として、親子で植樹祭と林業体験のイベントが開催され、武石を含む上田市内および青木から5家族、約25人が参加しました。

植樹祭では、約0.4ヘクタールの山野に参加者全員で唐松の苗木200本を植えました。前夜からの雨で土が湿って柔らかく、絶好の植樹日でしたが、山の石ころに手こずりながら約1時間で植え終わりました。

林業体験では、シイタケとヒラタケの菌打ち体験を行い、菌打ちした原木はお土産として各自持ち帰りました。



イベントを主催した(株)KIKORI社長の若林幸雄さんは、「今日植えた木がうまく育つといいですね。ここは市街からも近いので、足を運んで見に来てください。これからも、林業を身近に感じてもらえるようなイベントを開催していきたい」と話していました。



唐松の苗木植え



キノコの菌打ち体験



70年余の上武石文庫図書館Ⅳ

郷土史家 児玉卓文

20世紀初頭の日露戦争前後から大正末年もしくは1931年(昭和6)の満州事変にかけての、政治や社会・文化などのあらゆる分野に渡って現れた、民主主義や自由主義の運動や思想の流れを大正デモクラシーといいます。

上武石文庫の蔵書目録にもこの傾向を窺えるかなと思ったのですが、顕著ではありませんが、大正から昭和戦前にかけて、「母を訪ねて三千里」「子供動物学・子供植物学」「外国歴史物語」「家事科講義」など、少年や女性向きの本の配架がみられます。

私どもの上田小県地域は、大正デモクラシーの全国的な運動と呼応しながら、時には全国を引っ張るほどの独創的な運動を活発に展開したことで知られています。

大正8年、子どもたちが感じたままに表現することを重視した「児童自由画運動」が神川小学校を会場に始まり、農閑期を有効に生かし生活に生き甲斐と誇りを持つための「農民美術運動」は、同年同小学校の教室を使って始まり、のち大屋に瀟洒な農民美術研究所が設立され、9年には自己教育の実現と学問の中央集権化に抗うべく、「上田自由大学」が上田神職合議所を会場に開かれました。

こうした動きは、生活向上への関心が高く主体的な取り組みを行おうとする私ども地域の特性と評価されていますが、大正8年発行の「塩尻時報」を初めとして、次々に発行された村の新聞「時報」はそれを端的に物語っています。「時報」は単なるお知らせではなく新聞紙法に基づく月間新聞でした。経費は村費その他が当てられましたが、金は出しても口は出さないのが基本で、編集は素人とも言える村の青年会が行い、村全戸と村出身者に配られました。「時報」は他府県にもありましたが発行数は長野県がダントツで、中でも上田小県地域が最も多く34紙ありました。

武石では、大正12年1月1日、沖49ノ口番地の「武石時報社」から、赤羽三子義が発行者・編集人となって「武石時報」が発行されます。上田小県地域で六番目となる早い発行です。

柳沢賢次郎名の発刊趣旨は、「私ども同志の若い人達が、あい集まって」、「自治体の本領たる高遠の理想に基きて、武石村の健全なる発達をねがう一念」により、「熱烈なる郷土主義にして、

地方自治向上と産業扶掖(たすける)に努め、民衆の安寧幸福の増進を図る」ためと謳っています。

こうした動きの背景には、上田小県地域が日本有数の養蚕製糸業地帯で、第一次大戦前後の好景気が地域に富をもたらしたことがあります。しかし、戦後恐慌から不況の慢性化(大正11)、関東大震災(大正12)、金融恐慌(昭和2)、世界恐慌(昭和5)と続く経済的打撃の中で農村社会は疲弊します。

武石の青年たちがこの苦境にどのように対したのか知りたいたところですが、「武石時報」は第2号以下が失われおり、残念ですが知ることが出来ません。

さて、上武石文庫は残存蔵書の3割にあたる166冊が、昭和22年度の再登録ないしは新登録です。敗戦後、上武石青年団は寄贈や購入により蔵書を充実させ、活発な活動を展開した様子が窺えます。

21年7月文部省は通達により、地域の人々が集い学ぶ拠点「公民館」の設立を奨励しました。公民館を民主的な社会の礎を築く学校にしようとしたと言えます。24年制定の社会教育法は、第5章に公民館法を設け、その中で「人間形成と地域づくりに資するため図書の貸し出しを行う」と、実践部隊としての「図書部」が位置づけられました。



「図書貸納簿」が遺されていました。表題は昭和30年度とありますが、同35年9月30日、10月2日、同20日にそれぞれ別の人が借りた「若き知性に」「ノートルダムのせむし男」「死者の殺人」の返却を、12月25日と記録して終わっています。